愛甲喜春の墓

【所　在　地】志布志市志布志町志布志 2 － 18 － 14
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 36 年８月 16 日

志布志町役場の近く「下小西児童公園」の中央にある石造角柱の墓石が，愛甲喜春の墓である。

愛甲喜春は，慶長 10（1605）年，志布志郡若宮の大手口に生まれた。父新左衛門は貧しい下級武士で，そのころ大慈寺門前に移り住んでいた。幼少時この名刹で育ったことは喜春にとって幸いであった。寛永２（1625）年，喜春 21 歳のとき，南浦文之の高弟である都城常徳寺（後の龍泉寺）の僧泰岳の弟子となり，４年間儒学を修めた。さらに医学を津曲桃庵に学んだ。

寛永 17（1640）年 35 歳で，屋久島出身の儒学者泊如竹の門に入り，師と行動を共にした。その間，江夏二閑に易学を学び，47 歳の時皆伝に至っている。師如竹の没後，万治元（1658）年藩主の侍講となって江戸に上った。

貞享４（1687）年，文才に富む次子仲次郎の死に落胆して郷里志布志に帰り，著述に専念した。

著書には，『四書私鈔』，『蒙引本草』，『家伝医方集要』，『喜春聞書』その他があったがいずれも現存しない。門下には島津久竹，久茂，忠雄等があり，藩政に大きな影響を与えている。

元禄 10（1697）年８月 16 日，93 歳で没した。法名は「文嶺玄徳居士」。もの静かな寡黙沈静の人で，生涯笑ったことがなかったといわれるほどである。